

熊本市南区におけるまちづくりワークショップに関する一考察

1 consideration about the city planning workshop in Kumamoto Minami-ku

熊本大学工学部社会環境工学科

増永 和弘

1. はじめに

住民協働のまちづくりにおいて、住民の参加と行政の積極的な参加が必要となっている。本研究では、熊本市南区を対象として地域特性を示し、アンケートとワークショップ（以下、WS）において、まちづくりに対する地域住民の意見を分析し、それらを統合するWSについて考察することを目的とする。

2. 南区内6地域の特性

熊本市南区内6地域特性を土地利用・地域住民・地域文化の3点より把握した。表1にまとめた6地域特性より、同じ南区内においても住民の過ごす環境や人口構成、文化が異なることが分かった。

表1 6地域特性まとめ

	土地利用	地域住民	地域文化
①幸田地域	都市型	・人口密度が高い ・子供が多く高齢者が少ない	流通拠点を活かした祭りや新しい祭りが多い
②南部地域	都市型	・人口密度が高い ・子供が多い	伝統工芸や史跡に関連する長い歴史のある祭りが代表的である
③飽田地域	農村型	・高齢者が多い	市場やスポーツ施設を用いて地域の特色を活かした祭りが行われている
④天明地域	農村型	・人口密度が低い ・子供が少なく高齢者が多い	伝統的な祭りがあるが伝承が危うい状況である
⑤富合地域	総合型	・人口密度が低い ・高齢者が多い	伝統的な祭りと近代祭りが行われている
⑥城南地域	総合型	・人口密度が低い	伝統的な祭りと近代祭りが行われている

3. アンケートにみる住民意見の分析

南区住民を対象としたアンケートの意見表出を把握し、アンケート結果を年齢別・地域別に分析することで、まちの魅力や課題、将来像などに関する住民意見の傾向を考察した。

（1）年齢別分析：魅力・課題・将来像に対する考え方をみると、50歳代以上の高年層と40歳代以下の若年層の2つに分けることができる。高年層は古き良き南区を継承したいと考えており、若年層は都市的な新しい生活を望んでいることが分かった。また、近所付き合いにおいては若い世代ほど消極的であり、年代があがるにつれて積極的であることが分かった。

（2）地域別分析：2章の地域特性の調査結果に基づいて、魅力・課題・将来像の考え方をみると、まちづくりに対して、中央区（都市部）に近い地域ほど消極的であり、中央区から離れた人ほど積極的であることが分かった。また現在の居住地域に住み続けたいかの問いには、6地域の中で比較してみると中央区から離れていて、公共交通の利便性があり高くない地域ほど今後住み続けたいという回答の割合は低い。

以上の結果より、南区まちづくりアンケートの分析では、住民意見の傾向において地域差はあまり出ず、年齢別分析による高年層と若年層の違いが顕著にみられるということが分かった。

4. ワークショップにみる住民意見の分析

南区住民を対象に行われたWSの概要を示し、住民による意見集約結果を評価した。また、WSでの意見表出をテーマ別・地域別において分析することで住民意見傾向を把握した。

（1）キャッチフレーズ分析：WSで行われた成果であるキャッチフレーズを「A：よくまとまっている」、「B：ふつう」、「C：まとまっていない」の3段階で評価した。表2より、まずテーマ別にみると、キャッチフレーズがまとまりやすいテーマとまとまりにくいテーマがあることが分かった。次に地域別にみると、回数を追うごとにまとまりがよくなっていることが分かった。

表2 キャッチフレーズ評価と住民意見数

	1.南区内南部(25名)	2.南区内中部(34名)	3.南区内北部(23名)	4.南区内富合(44名)	5.南区内天明(41名)	6.南区内城南(22名)	合計
A. 地域のつながり	「自然を活かした地域のつながり」(32票) B	「自然を活かした地域のつながり」(20票) C	「自然を活かした地域のつながり」(41票) A	「自然を活かした地域のつながり」(107票) A	「自然を活かした地域のつながり」(81票) B	「自然を活かした地域のつながり」(68票) B	301票
B. 自然・環境	「自然を活かした地域のつながり」(32票) B	「自然を活かした地域のつながり」(20票) C	「自然を活かした地域のつながり」(41票) A	「自然を活かした地域のつながり」(107票) A	「自然を活かした地域のつながり」(81票) B	「自然を活かした地域のつながり」(68票) B	240票
C. 健康	「自然を活かした地域のつながり」(32票) B	「自然を活かした地域のつながり」(20票) C	「自然を活かした地域のつながり」(41票) A	「自然を活かした地域のつながり」(107票) A	「自然を活かした地域のつながり」(81票) B	「自然を活かした地域のつながり」(68票) B	261票
D. 子育て・子育て	「自然を活かした地域のつながり」(32票) B	「自然を活かした地域のつながり」(20票) C	「自然を活かした地域のつながり」(41票) A	「自然を活かした地域のつながり」(107票) A	「自然を活かした地域のつながり」(81票) B	「自然を活かした地域のつながり」(68票) B	308票
E. 防災・防災	「自然を活かした地域のつながり」(32票) B	「自然を活かした地域のつながり」(20票) C	「自然を活かした地域のつながり」(41票) A	「自然を活かした地域のつながり」(107票) A	「自然を活かした地域のつながり」(81票) B	「自然を活かした地域のつながり」(68票) B	305票
F. 食と農・農業	「自然を活かした地域のつながり」(32票) B	「自然を活かした地域のつながり」(20票) C	「自然を活かした地域のつながり」(41票) A	「自然を活かした地域のつながり」(107票) A	「自然を活かした地域のつながり」(81票) B	「自然を活かした地域のつながり」(68票) B	345票
G. 歴史・文化・交流	「自然を活かした地域のつながり」(32票) B	「自然を活かした地域のつながり」(20票) C	「自然を活かした地域のつながり」(41票) A	「自然を活かした地域のつながり」(107票) A	「自然を活かした地域のつながり」(81票) B	「自然を活かした地域のつながり」(68票) B	351票
合計	219票	243票	329票	463票	434票	401票	2109票

（2）テーマ別分析：本WSは元々設定された7つのテーマに則して意見交換が行われたため、そのテーマに応じた意見しか見受けられなかった。しかし、テーマによって「魅力」「課題」「将来像」それぞれに対する意見の出やすさや議論される内容の偏りに関しては確認することができた。

（3）地域別分析：WSにおいて得られた住民意見を細かくみていくと、各地域における傾向をみることができた。（表3）

表3 ワークショップ住民意見傾向

	ワークショップ住民意見傾向
②南部	歴史・自然を活かした祭りの活性化、歴史を伝える場づくり、特産品、史跡等を利用した観光案内に関する意見が多い
③飽田	世代間で集まれるオープンスペースを活かしたイベントや教室・場づくり、地産地消、環境整備に関する意見が多い
①幸田	若い世代を中心として物事を行うことや子供に視点を置いた意見、街灯などの子供からお年寄りまでが安全に過ごせる環境整備に関する意見が多い
⑤富合	PTA、学校などの地域のつながり、障がい者福祉などの組織づくりや行政と住民との連携に関する意見が多い
④天明	農業・自然を活かしたイベントや少子高齢化・後継者問題、避難指示等の情報提供に関する意見が多い
⑥城南	子供への歴史や自然などの教育、観光客を増やすための環境整備、新住民と旧住民との交流に関する意見が多い

地域ごとのまちづくりに対する住民意見傾向の違いを掴むことができた地域別分析は有益なものであることが分かった。

5. おわりに

本研究は熊本市南区を対象として、振興ビジョン策定において実践された6地域のWSについて考察したものである。6地域特性を把握した上で、アンケートにより地域住民のまちづくりに対する意見を分析した。WSでは南区役所との協働により、回数を増やすごとにWS運営技術が向上し、地域ごとにまちづくりに対する意見が出やすいテーマやそれぞれの傾向を知ることができた。今後の課題として、これら共有されたまちづくりに対する意見や考え方を実践に結びつけていくことがあげられる。